



# 子育て コラム

子どもの中にある  
「生きる力」とは

初めて、本コラムに寄稿いたし

ます、宇都宮共和国子ども生活学部の杉本太一と申します。私は、文京区教育センターの教育相談をはじめ埼玉県下で乳幼児健診の相談などに従事して、現在は保育者養成校の教員を勤めております。乳幼児から思春期・青年期までの子どもや保護者への相談支援の経験から、子どもの育ちや子育て支援を中心にお話しさせていただこうと考えております。どうぞ、よろしく願います。

## ■子どもの中にある 「生きる力」とは

文部科学省が定義している「生きる力」は「知・徳・体のバランスのとれた力のこと」と表現しています。その育成として3つの柱「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」をあげています。

私が子どもの中にある「生きる力」と捉えているのは、子ども自

身に生まれながらに備わっている、自分を育てる力「自己教育力」と自分を癒す力「自己治癒力」です。3000ケースを超える子どもへの支援を行ってきましたが、どの子にもこの力が内在しており、支援者として子どもの問題解決を図る上で常に心掛けていたことは、その力を理解し、引き出し、発揮できるように支援することでした。

## ■対人恐怖症の子どもの支援から

学童期に「対人恐怖症」と診断されて、中学生になって社会的引きこもり状態になったAくんは、私の初めての訪問相談の時に「外の世界を見てみたい」という夢を語ってくれました。二人でその夢を実現するために自転車で1年かけて様々な場所を見てまわりました。彼の次の夢は「コンピュータミュージックのソフトで作曲をする」でした。教育センターの一室に彼の制作室を設け、全国中学生のコンピュータミュージックコンクールに作品を出展したら、3位の賞を受賞することができました。それを契機に、センターの

音楽ホールで発表会を開催し、障がい児の課外活動の講師として彼を招聘して子ども達にそれを教えるなど、彼の夢を実現していく中で彼自身の問題も解決していききました。

私が彼にしたことは「対人恐怖症」ではなく、彼の語る「夢」(目標)に焦点を当ててそれを実現するための環境を整えていくことでした。子どもの「○○のようにになりたい」「○○がしたい」という想いの中に、子どもの中にある「生きる力」が隠されています。子どもの中にある「生きる力」を見出し、その育ちを支援できる大人でありたいし、そのような大人(保育者)を育てたいと念じています。



## プロフィール

宇都宮共和国子ども生活学部教授。資格は認定心理士、人間関係士。

東京都文京区教育センターの心理相談員や埼玉県下で乳幼児健診・乳幼児発達支援・子育て支援などに従事し、現在大学において保育者養成に務めている。その他、人間関係・HRST研究会会長として関係学理論を背景に独自に開発した地域住民や対人支援の専門職者を対象に心理劇を用いたアクティブラーニング(HRST)の研修会を主催し、子育て支援者の養成を中心に各種の講演活動、子育て・人間関係に関する出版物の発行を行っている。



すぎもと たいへい  
杉本 太一